HEM-Net 国際講演会のご案内

～ドイツ、イギリスのドクターヘリ事情～

2025.11/17（月） 14:00~17:30 会場+オンライン ハイブリッド開催

場所 全国町村議員会館2階 大会議室+オンライン（Zoom） **主催** 認定NPO法人 救急ヘリ病院ネットワーク（HEM-Net）

国際講演会の趣旨

ドクターヘリの夜間運航について、HEM-Netではかねてより調査研究を行ってきましたが、本年５月、現ADAC（ドイツ自動車連盟）のDr. Johannes Strobelの協力を得て「ドイツHEMSの夜間運航に関する実態調査報告書」を公表したところです。そこで、今回、同氏をお招きするとともに、イギリスのドクターヘリ事情に詳しい著名な病院前救急医療・麻酔コンサルタントであるDr. Cosmo Scurrをお招きし、国際講演会（通訳付）を開催し、その知見を広く関係者と共有することとします。併せて我が国のドクターヘリ夜間運航の可能性も展望します。

当日のスケジュール

総合司会：鷺坂 長美（HEM-Net 理事長）

- **開会あいさつ**（14:00～） **篠田 伸夫**（HEM-Net 会長）
- **講演1**（14:10～） **Dr. Johannes Strobel**（ADAC Air Rescue Germany）
- **講演2**（15:30～） **Dr. Cosmo Scurr**（Consultant in Prehospital Emergency Medicine）
- **講演3**（16:40～） **大森 一彦**（順天堂大学医学部附属静岡病院救急診療科科長・救命救急センター長）
- **質　疑**（17:10～）
- **閉会のあいさつ** **鷺坂 長美**（HEM-Net 理事長）

※英語逐次通訳。タイムスケジュールは目安です。 ※各講演の概要は裏面をご覧ください。

参加申し込みについて（会場・オンライン共通）

事前申し込み制です。右のQRコードまたはURLから参加申込ページにアクセスいただき、それぞれの申込をお願いします。

URL：https://medical-meeting.jp/hemnet2025/

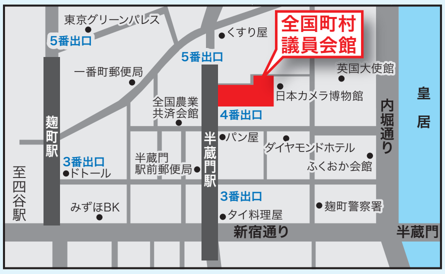
認定NPO法人

救急ヘリ病院ネットワーク（HEM-Net）

〒102-0082 東京都千代田区一番町25番 全国町村議員会館内

TEL：03-3264-1190 FAX：03-3264-1431 E-mail：jimu@hemnet.jp

＊地下鉄半蔵門線「半蔵門駅」4番出口徒歩1分



講演概要

講演 1

「HEMS夜間運航―変革、挑戦、展望」

Dr. Johannes Strobel (ADAC Air Rescue Germany)

本講演では、ドイツにおけるHEMS (Helicopter Emergency Medical Services) の夜間運航の歴史的な発展を概観し、初めての実験飛行から今日の制度化され、安全性重視のシステムまでを説明します。安全で効果的な夜間運航を行うための要件に焦点を当てます。乗員の能力とチーム構成は重要な要素であり、特に多人数のコックピットと医療チームの強さが重要です。

これらの要件は、運用の安全性と医療のパフォーマンスの基盤を形成しています。暗視装置 (NVIS) の導入は、近年の可能性を変革し、カバレッジを拡大しつつ、運用環境を再定義しています。しかしながら、制約は残っています。すなわち、天候依存性、より高い作業負荷、厳格な規制の枠組みが依然として影響を及ぼしています。

(Dr. Johannes Storobelの抄録を事務局で要約)

講演 2

「搬送から救命医療へ 英国ヘリコプター緊急医療サービスの発展」

Dr. Cosmo Scurr (Consultant in Prehospital Emergency Medicine)

英国におけるHEMSは、病院前救急医療へのアプローチの中心的存在になっています。1980年代後半に登場して以来、サービスは数と臨床範囲の両方で拡大し、迅速な患者搬送から現場での高度な医療介入の提供へと進化しました。この発展は、全国および地域のPHEMフェローシップを通じたトレーニングの制度化の進展と、麻酔、外傷、蘇生の専門団体のガイダンスによって支えられています。

英国のモデルは、慈善資金によっている点で特徴的であり、NHS (国民保険サービス) の救急サービスやBASICS (英国緊急医療協会) やblood bikers (医薬品等宅急便) のようなボランティア組織と密接に連携しています。これらの協力により、HEMSの夜間運航を含めた革新を可能とし、より広範な緊急医療の総合化が進められています。

システムが成熟し続ける中で、新たな課題と機会に直面しています：慈善団体と公的資金のバランス調整、医師以外の医療従事者やハイブリッド対応チームの潜在的な役割の模索、航空機と陸上車両の最適な組み合わせなどです。本講演では、英国の病院前救急医療の歴史、現状、将来の方向性を振り返り、国際的にも参考となる教訓を提示します。

(Dr. Cosmo Scurrの抄録を事務局で要約)

講演 3

「日本におけるドクターヘリ夜間運航の可能性と展望」

大森一彦 (順天堂大学付属静岡病院救急診療科科長・救命救急センター長)

本講演では、ドイツ・デンマークでの夜間HEMSの実地研修経験を基に、日本での夜間運航導入の可能性について論じます。

ドイツは全救急ヘリの約20%の拠点が24時間体制で運営されており、夜間運航では、暗視装置 (NVIS) を活用した高度なシステムが確立されています。デンマークでも独自のアプローチで夜間救急医療体制を構築しています。これらの現場で体験した運航体制、安全管理、医療クルーの構成、気象条件への対応などの実際について報告します。

日本の地理的・社会的特性を踏まえ、海外システムから学ぶべき要素を分析し、特に山間部や離島での夜間救急アクセス改善の重要性、既存の救急医療体制との連携、パイロット・医療従事者の訓練体系、規制・予算面での課題について検討します。最終的に、日本における夜間HEMS導入に向けた課題と方向性を整理し、患者の救命率向上と医療格差是正への貢献可能性について展望を述べます。夜間運航は、単なる技術的課題ではなく、国民の生命を守る社会基盤として位置づけるべき重要な取り組みです。